

I、本園の教育目標

「いつもにこにこ元気な子ども」

- 1、健康でたくましい子どもに
- 2、だれとでも仲よくできる子どもに
- 3、しっかりと約束の守れる子どもに
- 4、あいさつのできる子どもに
- 5、自分で考えて行動のとれる子どもに

★109名中 106名提出  
◎回収率 97%

II、自己評価の状況

◎目標を上回る ○目標に達する △目標に届かない

	評価項目	評価	取り組み状況
1	幼稚園の運営について	◎	園全体で園児募集・園児確保に向けて話し合し、協力して取り組んでいる。また、今年度もコロナ禍という中で最善を尽くし、その状況に合わせた運営の工夫ができていた。今後もできる範囲での社会情勢に対応した運営の工夫が必要である。新任の確保も必要である。
2	保育の在り方、幼児への対応	◎	教職員全員が園児一人ひとりの個性や性格、特徴を細かく把握し適切な対応をすることができた。支援が必要な子どもに対して、専門的な知識を深めるための研修を受けることができた。引き続き学ぶ機会をつくっていく。
3	保育者としての資質・良識・適性	◎	保護者からの相談等に対して、迅速に対応し適切な助言を行い、保護者との信頼関係を保つことができた。コロナ禍ではあるが、リモートでの研修会に参加し、スキルアップにつなげることができた。
4	保護者への対応・守秘義務	◎	個人面談やその都度、電話や手紙で様子を伝えることで、保護者との共通理解を深めることができた。
5	地域の自然や社会とのかかわり	△	コロナ禍で園外に遊びに行くことができなかった。地域とのかかわりについて、再度検討し実施していきたい。
6	保育者の専門性に関する研究・研究への意欲・態度	◎	三園で「主体的な子どもを目指して」を共通のテーマとして、園内研修として情報交換や学びの機会を作ることができ、理解を深めることができた。その為、第二幼稚園での研究保育にも「主体的」という部分で理解し研修に参加できた。
7	地域における子育て支援	◎	コロナ感染対策を行いながら、園庭開放の開催や未就園児の方が集まる施設等での説明会に参加することができ、幼稚園という場を提供したり、幼稚園について話したりすることができた。引き続き取り組んでいきたい。

IV、保護者評価の状況

結果	項目	内容
◎	お子様について	コロナ禍ではあるが出来る限りの活動や行事に取り組みさせて頂き心豊かに成長する機会を作っていただいた。子どもにとって必要な教育をして下さり、誰にでも挨拶ができる子どもに成長することができた。
◎	園の運営について	コロナ感染対策が徹底されており、日々安心して子どもを通わせることができた。 感染対策等に配慮し、行事に関してクラス毎のや人数制限など密にならない工夫をしていただけ安心して、行事に参加することができた。
○	家庭との連携について	悩んだ時は寄り添って、親身にお話して下さり、有難かった。園庭を駐車場の提供としていただき助かった。コロナ対応を迅速に対応していただき安心できた。コロナの休園の時に、今後どうすべきなのかという情報の出し方が遅かった。この点は改善してほしい

#### V、総合的な評価結果

評価	理由
A	・一人ひとりの保護者に、その都度適切な対応を心掛け、信頼関係を築き、安心して子どもを預けていただくことができた。どの子どもにも愛情をもって、個人に合わせた指導、援助をしていくことで、「いつもにこにこ元気な子ども」の教育目標が達成でき、保護者から聖徳教育でよかったと評価された。

A・十分に成果があった B・成果があった C・少し成果があった D・成果がなかった

#### VI、今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	・保育者のスキルアップを図る	・コロナ禍でも、様々な研修会に参加し、教員自身のスキルアップにつながるようにする。
2	地域における子育て支援 (昨年度はコロナ禍により実施できず、次年度も継続する)	・園庭開放等でも地域の方の子育ての悩みや相談等を話せるような場の提供や、コロナ禍で専門学校や大学の先生方に来ていただくことは難しい為、リモート等で専門的な話を聞ける機会を設けられたら良いと考える。

VII、学校関係者評価委員の評価・・・評価委員5名より、全項目において「A」の評価をいただいた。

#### コメント

- ・毎年、歯科検診で子ども達を見て怖くても頑張って口を開いて見せてくれる子ども達を頼もしく凄いと思う  
令和4年度も歯科検診で子ども達に会えることを楽しみにしている。
- ・コロナ禍という限られた中でも子ども達が園での生活を十分に楽しんでいるように思う。園全体が明るく、園児も教職員の方々も笑顔が沢山見られた。
- ・コロナの影響により、園外に遊びに行くことができなかつたのは残念だが、仕方がないことだと考える。家庭との連携に於いては、コロナの休園で今後どうすべきかの情報の出し方は、聖徳全体での方針等があれば、それに従って行えたのではないかと考える。全体としてはコロナの中、努力されたと思う。
- ・コロナウィルスに対する配慮が欠かせない日々が続く中、子ども達にとって有意義な時間となるよう先生方も様々なことに取り組んだことと思う。早くこの状況が変わり活動の幅が広がっていかれることを願う。
- ・いつも園児の為によりよい保育を、保育環境を整えて頂き、コロナ禍でもいろいろと工夫されていることが、報告書でも伺えた。聖徳大学や姉妹園があることは、とても強みだと思う。